

令和7年度卒業式

式辞 Be the Change! 女子大学が私を変える、女子大学で社会を変える

春の日差しが暖かに降り注ぐこの佳き日に、大谷範子名誉学長様、芝原玄記理事長・学園長様のご臨席を賜り、2025年度卒業証書・学位記授与式を、ご家族ご同席の中で挙行できますことは、私たちすべての教職員にとって大きな喜びでございます。

京都女子大学大学院博士前期課程、修士課程を修了された皆さん、そして発達教育学部・家政学部・法学部・文学部・現代社会学部を卒業された皆さん、おめでとうございます。4年前の4月、まだ新型コロナウイルスの行動制限が継続されている中での入学式でした。様々な困難を乗り越え、今ここに卒業の日を迎えられた皆さまに対して心よりお祝いを申し上げます。

ご臨席のご家族の皆さまにも、お嬢様が卒業・修了をお迎えになられましたことに心よりお祝いを申し上げます。お嬢様の成長を見守ってこられた、これまでの長年のご労苦に対して心よりの敬意を表させていただきます。また、育友会などを通して大学に賜りました様々なご支援についても、大学を代表いたしまして厚くお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

さて、卒業生の皆さんの胸には、今、卒業の喜びと同時に明日から始まる新たな生活への期待と不安が交錯しているのではないのでしょうか。これまでの人生のほとんどは学校と家庭という守られた環境の中で過ごしてこられました。しかし今、社会という広い世界に自分の力で飛び立とうとしておられます。

その飛び立ちの時にあたり、皆さんのこれからの生き方が、個人的な問題であると同時に社会的な問題であること、特に日本社会にとっては皆さん方女性の生き方が極めて大きな意味を有していることをお話させていただきたいと思います。

ご承知のように、昨年7月に発出しました「女子大学宣言」は様々なメディアで取り上げられ、社会に少なくないインパクトを与えました。在校生はもとより、卒業生、さらには本学に縁（ゆかり）のない女性からも喜びの声が多数寄せられました。卒業生の「自分のアイデンティティが保証された思い」や、一般女性からの「よく発言してくれました」との励ましの声を聞き、京都女子大学がこれまで目指してきた教育理念に間違いがないと確認した思いです。

「女子大学宣言」では、本学の教育を「女子大学という環境は、性差にとらわれることなく、一人ひとりが対等な関係の中で学び合い、自立した”人”として成長することを可能にします。」と謳っています。

2020年学長就任以来、女子大学教育の再定義を試みてきました。その第1歩が第2次グランドビジョンであります。明治以来の「良妻賢母主義」という女子高等教育の目的から明

確に決別し、21世紀の社会の担い手としての女性の育成を教育目的として掲げました。その意図の第1は、ジェンダー平等の実現は何よりも全ての人の人権を尊重する社会の基盤であり、社会的公正性の実現に必須であるからです。

皆さんも学ばれたように、本学の前身である京都女子高等専門学校は、「男女平等機会均等」な社会を願い、その実現のため女性の高等教育機関の設置に尽力した3人の女性たちと30万人の仏教婦人会会員の女子大学設立運動が契機となって設立されています。明治末期、明治民法の施行により家制度が確立した時代にあつて、本学の創設に貢献した女性たちの「男女平等機会均等」を願う精神を継承し続ける責務が私たちにはあると考えています。「女性には教育は無用」との時代にあつて、「学びたい」という女性たちの魂の叫びを、私たちは忘れてはなりません。

そして第2の理由は、ジェンダー平等の実現が日本社会の持続的発展に致命的に重要な目標であるからです。

先月、昨年の出生数が70万人を切り、政府の予測を17年前倒しして少子化が進行している、との人口統計結果が発表されました。日本の人口減少は、今や「人口爆縮」と呼ぶ時代に突入しようとしています。14年先の2040年には労働力人口が1,000万人以上減少すると推計されています¹⁾。ただ、人口は減少したにもかかわらず、昨年も労働力人口は増加しています。その理由は主に女性の就業率が上がったことにあります。

事実、もし女性の労働参加が男性と同等になると、労働力人口の減少は300万人に抑えることが出来ます。これだけ労働力人口が増加します。ただ数が増加したとしても、問題はその質、すなわち生産性にあります。

これは非正規雇用も含めた男性の給与総額と女性の給与総額を比較してみると、男性の給与総額141.7兆円に対して、女性の給与総額は61.1兆円、その差は実に80兆円にも上ります²⁾。労働力人口では、男性と女性の数の差は10%弱です。しかし給与総額では女性は男性の4割程度にしか過ぎません。その理由は、女性就業者の半数が非正規雇用であること、正規雇用でも給与水準の低い一般職が多く、管理職が少ないという点にあります。

さらに、2040年の労働力人口の減少は、他の条件が変わらなければGDPの57.8兆円、11%近くの減少をもたらします（対2020年度比）。しかし、女性労働力率が男性と同等まで上昇すると、減少幅を17.8兆円に抑えることができます³⁾。

皆さん方のこれからの生き方が、個人的な問題だけではなく、社会全体の問題に繋がっている、と申し上げたのはこの点にあります。数としての労働力だけではなく、質の高い労働力として日本の社会を支える一員となることが、あなたやあなたの家族の幸福だけでなく、社会全体の幸福も実現することになるのです。

戦後、日本国憲法で男女平等が謳われ、教育基本法制定で大学の門は女性にも開かれました。さらに男女雇用機会均等法や男女共同参画条例、女性活躍推進法など法制度では、大谷篤子たちが念願した「男女平等機会均等」はおおむね実現したといえますが、ジェンダーギ

ギャップ指数 118 位が象徴するように男女格差の大きさでは世界最低レベルです。日本は、ジェンダー平等が解消した国ではなく、「ジェンダー平等が潜在化」した国なのです。

就職されると、日本社会にはまだまだ無意識の偏見やマイクロ・アグレッションと呼ばれる悪意はないが、受け手に心理的な負担感や疎外感を与える言説が溢れているという現実
に直面されるかもしれません。「女の子なのに営業成績がトップすごだね」とか、「女子社員は遅くなるから先に帰っていいよ」などの悪意のない、それどころか親しみや思いやりでさえある言葉に出会われるかもしれません。これらの言葉の裏には「女性がか弱く、労わるべき存在」という男性社会の意識が潜んでいます。そして知らず知らずのうちに芽生えてくる自らの言動を抑制する感情、あるいは男性の後に従う行動、これらの呪縛にどうか囚われないでください。

なぜなら、あなた方は京都女子大学の卒業生なのです。とても私には無理、と思われる方もおられるかもしれません。しかし京都女子大学での 4 年間の学びは、皆さんが自分らしく、自分の力を発揮し、自分の道を歩む力をしっかりと築いてくれています。今日、手にされる京都女子大学の卒業証書はその証です。京都女子大学の卒業生としての誇りをもって、胸を張り、堂々と人生を歩んでください。皆さんの生き方そのものが日本の社会を変えていくのです。

以上のような思いを込めて、女子大学宣言に続いて、新しい大学のメッセージを 9 月に発表しました。Be the Change! これはマハトマ・ガンジーの「Be the change that you wish to see in the world. あなたが世界に見たい変化にあなた自身がなりなさい」、という名言に由来しています。「女子大学が私を変える。女子大学で社会を変える。」この言葉を胸に刻み、ご自身の身の周りから社会を変えていこうではありませんか。

京都女子大学も次の時代に向けて変わり続けます。2027 年に食科学部、2028 年に経営学部、そして 2029 年には大津市に看護学部の設置を計画しています。100 年余りの京都女子大学の歴史で初めて、この東山の地以外にキャンパスを建設するという大胆な計画に大学もチャレンジします。

最後に、本学の創始者のひとりである九條武子の和歌を卒業の花向けとして送りたいと思います。九條武子は大谷籌子亡き後、23 歳の若さで仏教婦人会総裁を引き継ぎ、女子大学設立趣意書を発表、そして全国の仏教婦人会を行脚して女子大学設立運動を牽引されました。さらに関東大震災後は、罹災児童の収容施設や被災女性のための職業訓練所、さらには女性の元受刑者のための救護施設などを精力的に展開され、仏教精神に基づく社会福祉事業の先駆的実践者として活躍されました。その九條武子の歌をお送りして本日の式辞といたします。

女達おそれてゆかぬ道あれば われに教えよ ゆくべしわれは⁴⁾

卒業生・修了生の皆さまのこれから歩まれる前途が、洋々たるものであることを念じまして式辞といたします。

本日はおめでとうございます。

2026年3月15日

京都女子大学 学長 竹安栄子

-
- 1) 林伴子・新村太郎（2022）「女性活躍とマクロ経済」
 - 2) 国税庁（2022）「給与実態調査」
 - 3) 林伴子・新村太郎（2022）「女性活躍とマクロ経済」
 - 4) 雑誌『婦人』1923（大正12）年1月掲載